

平成 30 年度 第 2 回 昭島市社会教育委員会議・要点録

開催日時／会 場 平成 30 年 5 月 24 日（木）午後 7 時 00 分～9 時 00 分 市役所 202 会議室
出席者 長瀬議長、谷部副議長、稲垣委員、佐藤委員、松本委員、中村委員、
吉村委員
欠席者 西尾委員、並木委員、二ノ宮リム委員
事務局 伊藤社会教育課長、吉村社会教育係長、来住野社会教育主事

1 開 会

<配付資料>

資料 1 アンケートまとめ

- ・昭島市月間行事予定表 6 月
- ・あきしまの教育 第 92 号

2 報 告

(1) アキシマクジラ特設ブースの出展について

事務局 市のさまざまなイベントで今後も特設ブースを出展する予定。ご協力をお願いしたい。

(2) 平成 30 年度第 1 回国内交流事業運営委員会について (5/1)

委 員 今年度第 1 回国内交流事業運営委員会があったので報告する。今年度の役員の選出があり、社会教育委員は会計監査となった。実施日は 8 月 3 日～6 日受け入れ、18 日～21 日が派遣となっている。スケジュールの変更があり、なるべく子供たちが疲れないよう配慮され、早めに対面式や施設見学を実施する。施設見学先も変更となった。日本電子による電子顕微鏡実習とシマダヤの見学を予定。参加費は 12,000 円。ホームステイについては、原則受け入れとし、応募の段階で、参加申込に男女別の受け入れ人数を保護者が記入することになった。参加申込は 5 月 25 日（金）までとなっている。

(3) 研修会「市民のニーズを活かす・つなげるあきしま会議」について (5/19)

事務局 今回の研修会は、20 代から 70 代までの参加があり、多様な世代が集う研修となった。詳しくは資料 1 をご覧いただきたい。アンケートからはこのような機会を望まれる声も多かった。のちほど議題の中で議論していただきたい。

(4) その他

委 員 昭島市健康づくり推進協議会が 5 月 21 日（月）開催され、今年度の第 1 回目ということで委嘱状の交付と役員改選があった。9 月 17 日（祝）にいいき健康フェスティバルが実施される。昨年 10 月に昭島市健康づくり連携事業に係る連携事業者の登録に関する要綱ができたそうで、申出を行った民間事業者と連携して事業を推進する取組み

を行なっていくとのことだった。

3 議 題

(1) 建議「市民相互と地域のつながりを育てる生涯学習推進のための社会教育の役割（仮）」 について（資料1）

議 長 まず、先日行った研修会「市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議」について、出席された方からお願いしたい。まず、運営について。

委 員 グループのバランスがよかった。できれば、別のグループでどんな話があったのかを早く知りたいと思った。グループの中で分かれて自己紹介のワークをしたが、全員でやってもよかった。

委 員 分かれてやるとすすみ具合が違うので、「私の社会相関図」を皆でやってもよかった。

委 員 「私の社会相関図」は、自分で書いてみて大変面白かった。自分のためになった。

委 員 全体の時間配分などは大変良かった。グループ内での時間配分も適切だった。共通点を出すのは難しかったが、それでグループメンバーの感じはつかめたと思う。

議 長 最初の自己紹介の部分でグループメンバー全員の様子がわかると、ファシリテーターとしてもよかったかもしれない。共通項探しと順番を逆にしても面白いかと思った。お互いを知り合うということというのは大事だと思った。グループのバランスなどはどうだったか。

委 員 グループの人数はとてもよかった（同意見多数）。発言もしやすかった。

委 員 他のテーブルとの距離が近すぎるのではと思ったが、意外と開けた。

委 員 報告者のテーマに沿ったメンバーで構成されているようにも感じた。グループの組み合わせがとても重要になっているのだと思う。

議 長 グループの様子はどうだったか。

委 員 どちらも子供との関わりに関する報告で、相手の報告の中に自分の活動で使えるようなアイデアがわく瞬間があった。これは双方にあったと思う。関連性が持たせられたのでよかったのではないかと思う。

委 員 聞き手の方も子供に関わっている方が多かったが、やっている活動は全く別物で、川遊びの報告から、私は昭島はリバーサイドなのだということを改めて認識した。線路の北側は多摩川から離れているので、子供たちを川で遊ばせるという発想もなかった。同じ昭島なのに、地域性の違いがどういうものかを実感した。

委 員 南北だけでなく、東西でもそれぞれの地域性がある。

委 員 メインの活動内容が違う人と話すと、いい気づきがある。

委 員 今回の会議では、そういうことに気づかせてくれている。

委 員 ロコミで集まった人が多いということだったが、社会貢献に対して意識の高い方が多かったように思う。だからこそ、人の話を聞いて質問ができるという下地もあったのではないか。私は、報告を聞いてもらうことによって自分では気づかないでいたことが出てくるなど、逆に助けられたと感じた。みなさん、自分の世界になかったものを知るだけでも、幅が広がった、知る楽しさのきっかけにつながったと思った。実によかった。

逆に、報告を聞かせてもらって「人を信じること」について、改めて気づくことがあった。

委員 私のグループでも、報告者に対する全体での話し合いを行った。私は茶道体験について報告をさせてもらったが、普段茶道をやる人は同じ方向性を向いた人が集まって話をしているわけで、今回初めて茶道に対して異なる感覚を持っている人もいると知った。自分は、茶道体験を通して茶道の世界に向き合うきっかけづくりがしたいのだと思った。茶道はお金もかかるものだが、保育園などでも体験させているところもあるそうだし、学校の課外活動や他団体とコラボレーションもできそうだと感じる事ができた。

委員 自分が知らなかった団体について、その活動を知ることができたのはよかった。活動内容は違っても、会員数が増えないなど同じような悩みがあることもわかった。

議長 報告のあったサロン活動では、月に1度定期的に開催され、多様な文化を知れることを軸に、テーマもその都度雰囲気決め、自由に話しているという話だった。何か結論が出るわけではないのだそうだ。そういう活動で今年で5年になるという。5年間そういう感じにつながっていることにも驚き、新鮮だった。我々のグループはみなさんよく話をしていたと思う。

委員 報告する・しないに関わらず活動のチラシを持ってきてくれた人も多かったので、互いの活動内容がわかりやすかった。こういう場に来る人は情報を求めているだけでなく、発信もしたいのだと思った。

委員 花まるなど、子供の小さな喜びを大切にするという話も出た。

議長 市民ニーズを活かすというテーマだったので、市民のニーズと感じたものがあれば紹介していただきたい。また情報の仕方について気が付いたこと等。直接話題に上らなくても、話題の中に実はこれがニーズなのではないかというようなことがあったのではないかな。

委員 私のグループでの報告は、専門的な内容の活動で、市民のニーズに応じて何かしているというように捉えなかった。保護者は自分の子供が引っ込み思案だと思っていても、子供たちを信じ、子供たちは演劇を通して人と関わる中で、堂々と人前でできるようになるという話だった。わざわざ引っ込み思案の解消のために来ているわけではないし、そこを求められているわけではないけれど、やってみた結果、思わぬ結果や効果を生んでいる場合があるのだと知った。

事務局 どのだれがどんな活動しているのかを知っていると、つなぐことができる。いろいろな方が知り合うことで、人のニーズを届けるためにつなげることができるということが大切なのではないかと思う。

委員 共感したことやいいと思ったことをそれぞれ付箋に書いた中で、教育コーディネーターの充実というコメントが3件あった。私の話を聞いて、そのように感じた人がいたということ。そういうコーディネーターが大事なのではないだろうか。

委員 土曜補習の報告の中で、子供たちの参加が増えている理由は、いいなと思った子供たちが友達を連れてくる。それが一番強い。つながる力が何にも勝るチラシ。

委員 アンケートなどでわざわざ調査してニーズを調べなくても、知らないうちにそのニー

ズにちゃんと応えている、そういう組織もあると知っておくことが重要。学校などで授業に参加できない子供たちが、放課後などに補習をやってくれているということ等は、子供たちの関係性の中から口コミで広がっていき、足りない部分を補っているというニーズの応え方。わざわざ宣伝しなくてもいいし、アンケートを取らなくてもできるということだ。

委員 勉強をする場であるということが補習教室の本来の目的だが、そこに参加している子供たちは、そこまで厳しくないらしい、つまらなくないらしいと言っており、そんな中から実際の参加者はつながっていくというのが大切なのだと思う。

事務局 他の部グループの中でAバスについて話題になったそう。参加者が何気なく言われた講座の時間に合わないということの中に、改善のヒントが見えたと聞いている。

委員 近藤牧子先生からの、学び合うコミュニティの話、省察の話は大変良かった。

委員 今回の形式のものは、また続けたいと思う。ニーズを探るのが目的であれば、ニーズを探るとはこういうことだという説明や例示があってもよいのかもしれないと思った。あとから振り返るのはなかなか難しいので。

議長 意図していなくても結果的にニーズだったのではないかという話があったが、最初にニーズってこうだと決めてしまうと、逆にそこに気づかないかもしれないので、今後建議にまとめるにあたり、こういう市民ニーズがあるというところから書き始めようかと思っていたが、ニーズを決めてしまうと広がりが無くなるのではと思うようになった。市民ニーズを活かす・つなげるという順番にしているが、活かされてつながる、ニーズが生まれるということもあるのではと気づいたので、まとめ方の工夫が必要だと思った。

委員 タイトルも「活かす・つなげる あきしま会議」でもよいかも。

委員 庁舎への入り口がわかりづらかった。今後、入口の説明があった方がよい。

委員 グループの中で話したりなかった方もいるかもしれないので、次回報告をお願いしてもよいかも。

委員 アンケートでは「報告したい」と答えている人が多い。

委員 そのニーズを吸い上げてもう一度「あきしま会議」をやるとよい。

委員 今回、どう報告をすればよいかかわからなくて、尻込みされた方もいるかもしれない。今回の様子を見てやってみたくなったという声もあった。

委員 報告の人用に6項目挙げてあったのが書きやすくてよかった。あれがなければ、書けなかったと思う。

委員 市の講座や教室に関して、何クールも受けられる方というのは、ある面でいえばとても熱心ということではあるが、別の見方をすれば、他の方の受ける機会を奪ってしまっているのではないかと思う。主催者側の意図と異なる場合があるのではないか。対象者を限定することや、はじめての方を優先するなど明記することも場合によっては必要。

委員 広めていくというのが生涯学習ではないだろうか。

議長 あきしま学びぷらん（第2次昭島市生涯学習推進計画）は、前期と今期で評価することになり、じっくり読んだ。市民の方にこれはどのくらい知られているのだろうか。何をめざしているのか知られていない。そこも知ってもらう活動も必要になってくるので

はないだろうか。

委員 市民に知ってもらうには、学びガイドが役に立つのではないかな。

議長 生涯学習というツールを使って市民相互と地域がつながるということ、つまり、知り合ってつながるということが学びぶらんの基本目標なので、今回のあきしま会議の中でもやったアイスブレイクをやるだけでも、相互につながりができるのだから、全部の事業でやってもらうと効果があるのではないかな。何のためにやるのかといえば、知り合ってつながるための第一歩だから、昭島市では、すべての事業ではじめにアイスブレイクを取り入れるという取り組みをするのもよいのではないかな。それをメディア等で知られていくというのも改めて市民に周知する機会にもなる。私は生涯学習はツールであって、生涯学習をすることが目標ではないのではないかと感じている。

委員 活動を継続していくにあたって、記録を残し振り返るというプロセスは重要だ。細かく記録を残すことも大切だと思った。それをまとめて報告したり情報交換したりする場はとても必要なことだと思う。

議長 建議を書きはじめ、また皆さんからご意見をいただきつつまとめていきたいと思う。次回以降の予定を確認して、本日の会議は終了する。

次回

6月28日(木) 午後7時より 市役所202会議室

7月19日(木) 午後7時より 市役所205会議室